

# 【一般入試編】 利用大学数は 5 年連続増加！ 採用率は 92% の英検がトップ

旺文社 教育情報センター 2019 年 2 月 1 日

センター試験の後継とされる共通テストのスタートが 2 年後の 2021 年度(2020 年度実施の入試)に迫っている。その共通テストにおける英語では大きな変革が予定されている。これまでのセンター試験と同様に大学入試センターが作成する問題に加え、「読む」「聞く」「話す」「書く」を合わせた 4 技能を評価する英語外部検定試験(以下 外検)の 2 つの試験が併用されることになる。さらに、2025 年度以降については、外検利用への完全移行が検討されている。

そうした国主導の英語入試改革が進むなか、各大学の一般入試における英語においても大きな変化が起きている。今後の英語入試改革への対応と志願者の確保という 2 つの側面から、一般入試に外検を利用する大学が増え続けているのだ。

旺文社教育情報センターでは、拡大を続ける一般入試における外検利用について、さまざまな視点から調査し、分析を行った。入試改革が 2 年後に迫る 2019 年度一般入試で外検がどのように利用されたのかチェックしてほしい。

**利用大学数は 5 年連続増加で 187 大学！**

**利用大学率は 24.3% (前年 19.8%) まで拡大！**

まずは一般入試で外検が利用できる大学数を調査した。図 1 を見てほしい。今年度(2019 年度)の一般入試で外検を利用できる大学は、全国 768 大学のうち 187 大学あることが分かった。前年の 152 大学から大幅に増加し、前年比 123% となった。また、全大学に占める外検利用大学の割合も前年の 19.8% から 24.3% となり、4.5 ポイントアップした。

一般入試に外検が本格的に導入された 2015 年度の調査開始以降 5 年連続の増加となり、大学入試における外検利用がさらに拡大をしていることが分かった。

その増加を牽引しているのは私立大だ。表 1 の設置者別の外検利用状況を見てほしい。表内①を見てみると、外検が利用できる 187 大学のうち私立大は 168 大学もあり、利用大学に占める割合は 90% 近く(表内②)にまでなる。また、表内③の全私立大に占める外検

利用率を見ても 28.5%と、前年の 22.9%から 5.6 ポイントもアップしており、急速に外検が利用できる私立大が増えていることが分かる。

その一方で、公立大ではなかなか外検利用入試が普及していないことも分かる。設置者別の利用率の公立大を見てほしい。国立大と私立大は 20%を超えているにもかかわらず、公立大は 3%以下（表内④）となっている。また、表内⑤を見ても、公立大は 1%台となっており、一般入試で外検利用できる公立大が限られていることが分かる。今年度の一般入試で外検利用できる入試があるのは、国際教養大学と兵庫県立大学の 2 大学のみとなっている。

なお、本記事の最後に今年度の一般入試で新たに外検が利用できるようになった主な大学を載せた。国立大と公立大はそれぞれ 1 大学のみで、新規利用大学のほとんどが私立大だった。このことから外検利用入試は私立大が牽引していることが分かる。

▼図 1：一般入試で外検が利用できる大学数（過去 4 ヶ年の推移）



※2019年4月入学者の学生募集を行った大学。また新設の専門職大学2大学、および文部科学省所管外の大学校のうち、学士の取れる7校は数に含めた。通信制のみの大学は除く。

▼表 1：設置者別の外検利用状況（対象入試：2019年度の一般入試）

	設置者別 全大学数	外検利用 大学数	設置者別 外検利用率	利用大学に 占める割合
国立大	82	17	20.7%	9.1%
公立大	90	2	2.2%	1.1%
私立大	589	168	28.5%	89.8%
全体	768	187	24.3%	100.0%

※2018年度入試の私立大における設置者別外検利用率：22.9%

採用率は「英検」が92.3%と圧倒的！

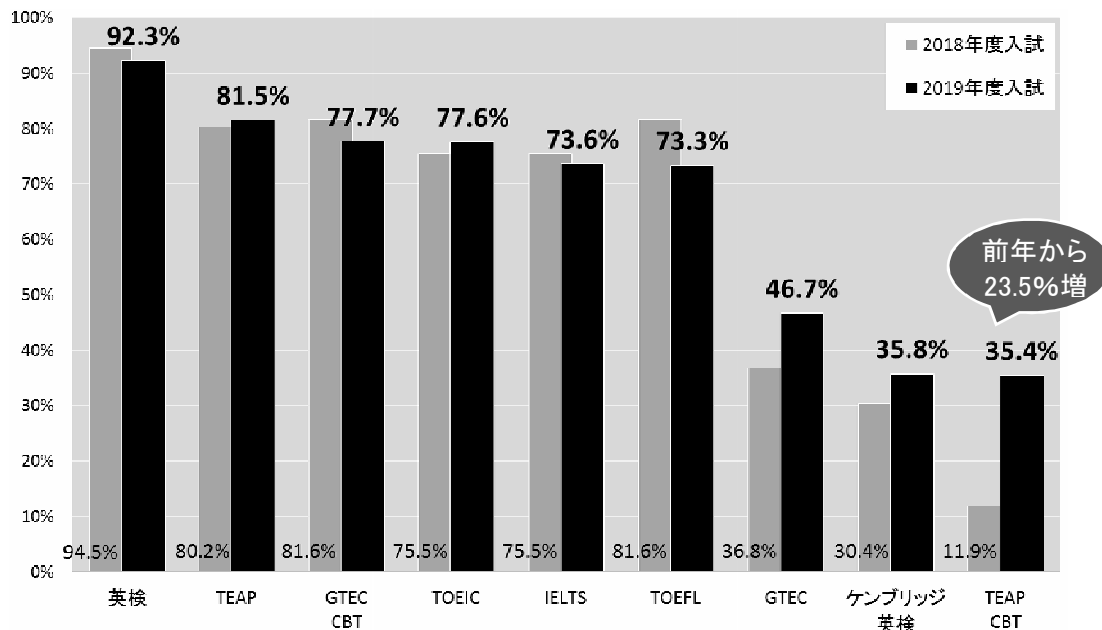
採用増加率で見ると「TEAP CBT」が最大で、23.5%アップ！

次に外検の採用率を見てみよう。図2を見てほしい。これは各大学の外検利用入試のなかで、受験生が利用可とされている外検の割合を示したものだ。採用率では英検が92.3%とトップで、次いでTEAPの81.5%となっている。GTEC CBT、TOEIC、IELTS、そしてTOEFLの4つの外検は70%台の採用率となっている。一方、GTEC、ケンブリッジ英検、そしてTEAP CBTは50%以下となっており、受けられる入試は限られている。

図2のなかでもう1つ注目したいのが採用率の増減だ。採用率35.4%と図のなかでは最も低いTEAP CBTだが、採用増加率で見るとトップで、前年から23.5ポイントもアップしている。TEAP CBTは、一般入試だけではなく今年度入試の推薦・AOでも採用増加率を大幅に伸ばしており、2019年度入試で大きく躍進した外検と言えるだろう。

採用率が増加した外検がある一方で、図を見ると採用率が減少している外検もある。ただし、このデータの見方には注意が必要で、採用率では減少しているが、採用入試数ではすべての外検で増加している。要するに、外検ごとの採用入試数は増えているものの、その増加以上に全体の入試数が増えているため、一部の外検では採用率が下がるという現象が起きているのだ。例えば、英検の場合、採用率では2.2ポイントの減少となっているが、採用入試数では285入試も増加している。

▼図2：2019年度の一般入試における外検の採用率



※TOEICはTOEIC LRとLRSW、TOEFLはiBTとJC、GTECは3技能と4技能、TEAPは2技能と4技能を合算し算出。

※各検定の採用については募集要項に記載されている検定をすべて計上。「それに準ずる検定でも利用可」のような記載の場合は、上記すべての検定が採用されているとしてカウント。募集要項の文面から記載検定以外が有効と読み取れない場合には採用としていない。

外検の利用方法は「得点換算」が61.3%で最多  
「得点換算」は受験生と大学の双方にメリット

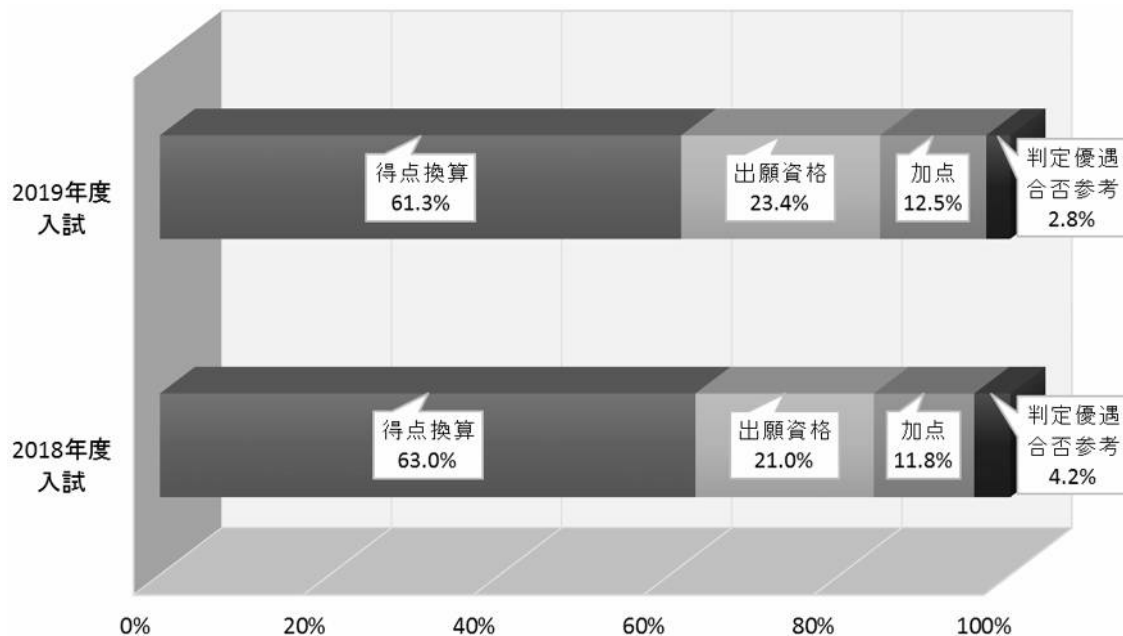
ここまで一般入試での外検利用大学の増加や各外検の採用率を見てきたが、ここでは外検の利用方法についてまとめた。利用方法は主に以下の4つの方法に分類される。

▼表2：4つの利用方法

1	得点換算	「英検2級以上は個別試験の英語を80点に、準1級以上は100点に換算する」など。 試験免除(「英検2級以上を取得している場合、個別試験の英語を免除する」など)も含む。
2	出願資格	「英検2級以上を出願要件とする」など。
3	加点	「英検準2級以上はセンター試験の英語に10点、2級以上は20点、準1級以上は30点加算する」など。
4	判定優遇 合否参考	「英検準2級以上を取得している場合、合否判定の際に優遇する」など。

4つの利用方法を確認してもらったうえで下図3を見てほしい。最も多く利用されている方法は「得点換算」で、全体の61.3%も占めた。さらに、記事の最後に載せた「外検を一般入試に新規で取り入れた主な大学」のなかでも61.8%の大学が「得点換算」での利用だった。

▼図3：一般入試における外検の利用方法



「得点換算」の特徴としては、「英検準2級は80点に、英検2級は90点に、準1級以上は100点に換算」といったように、利用できる級やスコアの範囲が広く、幅広いレベルの外検受験者が利用しやすい方法ということが挙げられる。

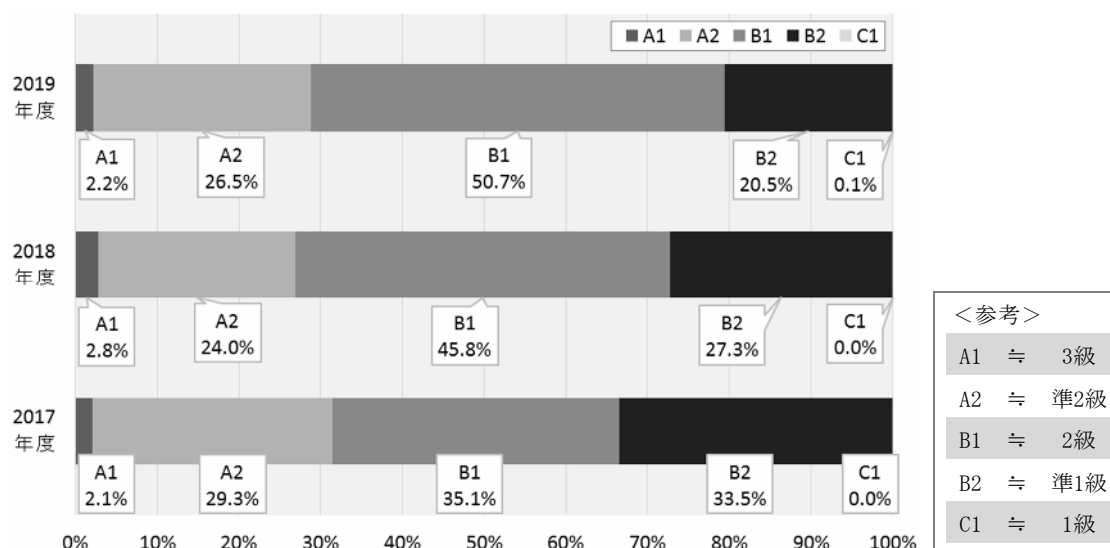
上位の級や高いスコアを持っていれば、そのレベルに応じて高い評価をしてもらえ、上位の級や高いスコアを持っていなかったとしても、ある一定の得点に換算をしてもらえる。このように「得点換算」は、幅広いレベルの受験生においてもメリットが大きい利用方法と言える。また、大学としても、幅広いレベルの受験生に受けてもらえることで志願者数の確保を図れるだけでなく、学力の高い層からの受験も期待できるというメリットがある。このように受験生と大学の双方にとってメリットが大きいことが「得点換算」が最も利用される理由と考えられよう。

得点換算に次いで多かったのが 23.4%の「出願資格」で、得点換算と出願資格の 2 つの利用方法で全体の約 85%を占める結果となった。「出願資格」はある一定の級やスコアまで到達していないと利用できないし、より上位の級やスコアを持っていても優遇されるわけではない。その点で得点換算に比べると利用できる級やスコアの幅は限定される。しかし一方で、大学としては求める英語レベルに到達している層にのみ志願者を絞り込めることから、学力担保の意味合いが他の利用方法に比べ強いと言えるだろう。その特性から「出願資格」は、推薦・A0 では最も多く利用される方法となっている。(推薦・A0 についての記事はこちらを参照：<http://eic.obunsha.co.jp/resource/viewpoint-pdf/201901.pdf>)

**一般入試で求められる英語レベルは、  
英検 2 級相当の CEFR B1 レベルが全体の 50%以上に！**

次は一般入試で求められる外検のレベルを見てみよう。ここでは採用率が約 92.3%と最も高い「英検」を対象とし、各入試で設定されている級と CSE を CEFR にあてはめて算出した。段階別に優遇を行う得点換算や加点での外検利用入試については、最易レベルで集計をした。なお、CEFR は 2018 年 3 月文部科学省公表の新 CEFR を利用している。

▼図 4：外検を利用する一般入試で求められる英語レベル（CEFR 換算）



ここでは傾向をよりわかりやすく把握するために3ヵ年のデータをまとめた。それが図4だ。図からまず見えてくるのは、英検準1級レベルに相当するB2が減少し、英検2級レベルに相当するB1が増加しているということ。2年前の2017年度入試のときのB2とB1の割合を見てほしい。それぞれほぼ同じ割合だったが、この2年でB2は大幅に減少し、B1は大幅に増加した。さらに、B2が大幅に減少したことにより、今年度入試ではA2の割合に抜かれることにもなった。

今年度の一般入試に外検を新規で取り入れた主な大学のなかでも、最易レベルをA2～B1に設定した大学は31大学（約91%）あった。

ここから見えてくる大きな傾向としては、多くの大学で最易レベルの設定が英検準2級～2級レベルに落ち着いてきているということだ。

最易レベルの設定がA2～B1に落ち着いてきている背景としては、まずは、文部科学省の掲げる高卒時の目標英語力が英検準2級～2級レベルとなっていることが挙げられる。さらに、利用方法で全体の約61%を占める得点換算や加点で段階別の評価を行う際に、最易基準を下げることで受験生に積極的に入試利用をしてもらいたいという大学の意向もうかがえる。

#### 学問系統別の外検利用を調査！

##### 「外国語学」と「国際関係学」の2系統が外検利用入試を牽引！

最後に一般入試における学問系統別の外検利用を分析した。図5では、全大学の全学科を18の学問系統別に分け、それぞれの最大学科数を100として、外検利用できる入試がある学科の割合を外検利用入試比率として示した。

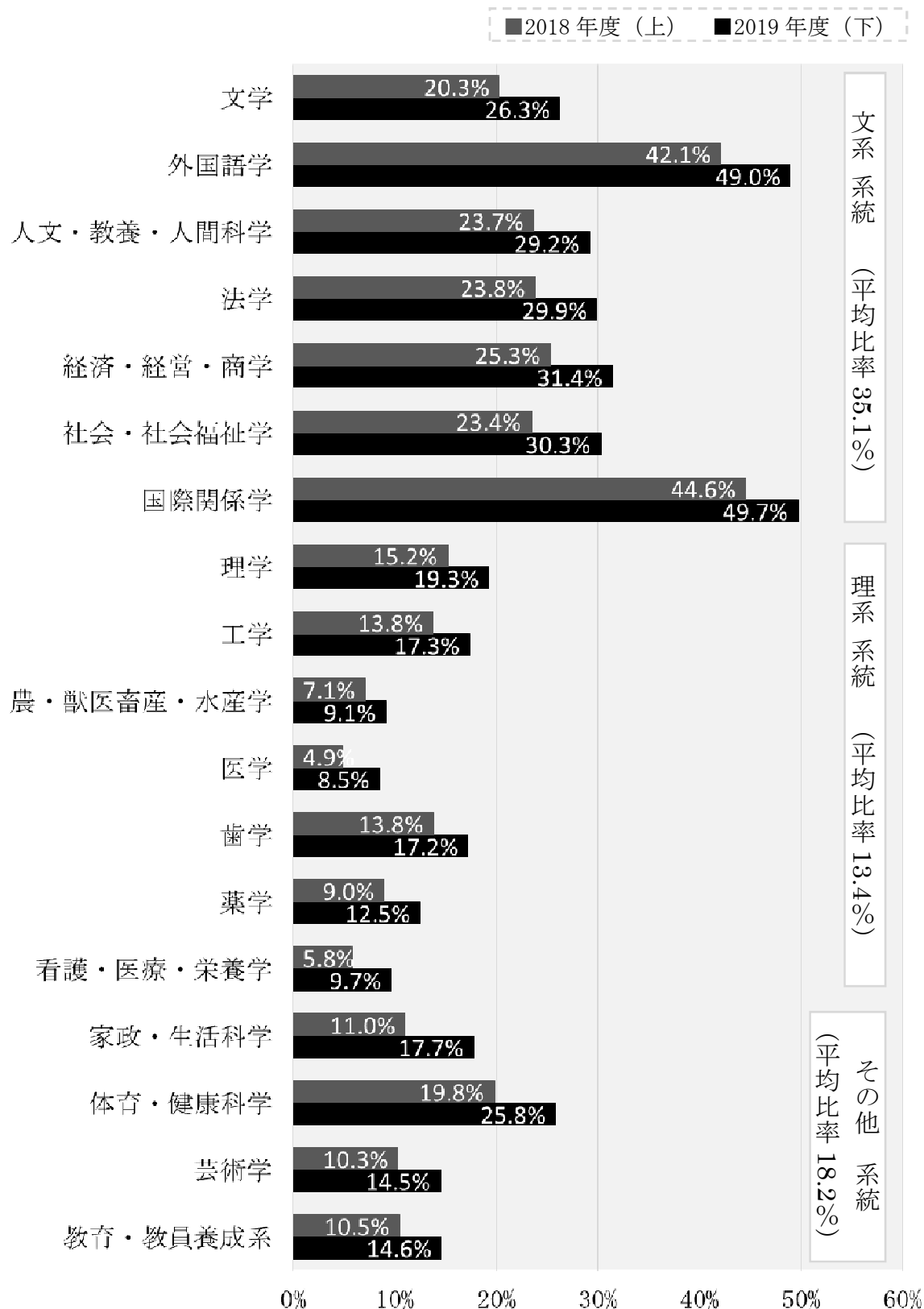
一般入試で外検が利用できる大学数（図1参照）が大幅に増えていることもあり、18の全学問系統で外検を一般入試利用できる学科が増えていることが分かる。

次に18の学問系統別に見てみると、「外国語学」と「国際関係学」の比率が突出して高い。両系統ともに約半数の学科で外検が利用できる。学問系統の学びと英語との関係が深いこの2系統が外検利用入試を引っ張っていることが分かる。

また、この2系統を含む文系系統は、外検利用できる入試を実施する学科が多く、平均でも35%を超える結果となった。

一方で、理系系統はまだ外検利用できる入試を実施している学科は少なく、平均して13%程度となっている。特に「農・獣医畜産・水産学」「医学」「看護・医療・栄養学」では外検が利用できる学科は10%を切っている状況だ。

▼図5：学問系統別 一般入試 における外検利用入試比率



※学問系統は螢雪時代4月臨時増刊における各大学からのアンケート回答に沿って分類。

※原則、集計は「1学科1入試=1」で計上。1入試の中で方式が細かく設定されている場合(A,B,C方式など)は、まとめて「1」で計上。

※学問系統が複数にまたがる場合、両系統に計上(例：国際経営学→「経済・経営・商学」「国際関係学」系統の両方に計上)。



▼表 3-1：外検を 2019 年度の一般入試に新規で取り入れた主な大学

No.	設置者	大学名	学部・学科名	入試種別	入試名	利用方法
1	国立	広島大学	全学部	独自	前期 後期 ※1	得点換算
2	公立	兵庫県立大学	国際商経学部	独自	前期 └ グローバルビジネスコース 後期 └ 経済学コース／経営学コース	得点換算
3	私立	札幌学院大学	全学部	独自	A日程 B日程	得点換算
4	私立	星槎道都大学	全学部	独自	A日程 B日程 C日程	加点
5	私立	苫小牧駒澤大学	国際文化学部	独自	A日程 B日程	得点換算
				七試	A日程 B日程 C日程	
6	私立	北海道科学大学	全学部	七試	前期 後期	加点
7	私立	国際医療福祉大学	医学部	独自	一般	判定優遇 ※2
				七試	七試	
8	私立	浦和大学	全学部	独自	I期 II期	得点換算
9	私立	川村学園女子大学	全学部	独自	I期 II期 III期 IV期	加点
10	私立	工学院大学	全学部	独自	英語外部試験利用入試 航空理工学専攻入試 └ 先進工学部 機械理工学科	出願資格
11	私立	清泉女子大学	文学部	独自	2月 3月	得点換算
12	私立	大正大学	全学部	独自	前期 中期 後期	得点換算
13	私立	大東文化大学	文学部 ※3 └ 英米文学科／歴史文化学科 経済学部 ※3 └ 社会経済学科 外国語学部 法学部 国際関係学部 スポーツ・健康科学部	独自	英語外部試験活用総合評価型入試	出願資格
14	私立	玉川大学	全学部	独自	英語外部試験スコア利用入学試験	出願資格
15	私立	東京電機大学	全学部	独自	英語外部試験利用	出願資格
16	私立	東京富士大学	経営学部	独自	I期 III期	得点換算
17	私立	日本大学	経済学部	独自	A方式[第1期・2期]	得点換算
18	私立	日本女子大学	人間社会学部	独自	英語外部試験利用型	出願資格
19	私立	静岡産業大学	経営学部	独自	前期[特待生選考型]	得点換算
20	私立	金城学院大学	全学部	独自	前期[英語外部試験利用型]	得点換算
21	私立	京都橘大学	全学部 ※4	七試	前期 後期	得点換算
22	私立	大阪経済大学	経済学部 経営学部 第1部 情報社会学部 人間科学部	七試	C方式	得点換算



▼表 3-2：外検を 2019 年度の一般入試に新規で取り入れた主な大学

No.	設置者	大学名	学部・学科名	入試種別	入試名	利用方法
23	私立	常磐会学園大学	国際こども教育学部	独自	手続き優遇入試	加点
24	私立	梅花女子大学	全学部	独自	I 期 II 期	得点換算
25	私立	大和大学	全学部	独自	前期 中期 後期 七試プラス ※5	得点換算
				七試	前期 後期	
26	私立	大手前大学	全学部	独自	A 日程 B 日程	得点換算
				七試	A 日程 B 日程	
27	私立	関西福祉大学	全学部	独自	前期 後期 前期七試プラス	得点換算
28	私立	神戸親和女子大学	全学部	独自	前期 [A2+EQ型]	加点
29	私立	宝塚医療大学	保健医療学部	独自	前期 中期 後期	得点換算
30	私立	兵庫医科大学	医学部	独自	一般B[高大接続型]	出願資格
31	私立	広島経済大学	全学部	独自	1期 2期	得点換算
				七試	1期 2期	
32	私立	久留米大学	文学部 人間健康学部 法学部 経済学部 商学部	独自	七試プラス	得点換算
				七試	A 日程 B 日程	
33	私立	筑紫女学園大学	全学部	独自	前期 後期 七試プラス	得点換算
				七試	1期 2期 3期	
34	私立	熊本保健科学大学	保健科学部	独自	一般	加点

※1：一部の学科で後期日程の実施無し（総合科学部－国際共創学科、教育学部－第三類、理学部－生物科学科、医学部－保健学科、歯学部－口腔健康科学科[口腔保健学専攻]、薬学部）。

※2：提出必須の活動実績報告書に「語学等」欄が含まれるため外検が利用できる入試として含めた。

※3：文学部と経済学部の一部の学科では実施無し。

※4：日本語日本文学科[書道コース]では七試の実施無し。

※5：政治経済学部と保健医療学部、そして教育学部初等幼児教育専攻では七試プラスの実施無し。

(2019.01 林)